

大草谷津田いきものの里 自然観察会

冬の田んぼにカエルの卵？！

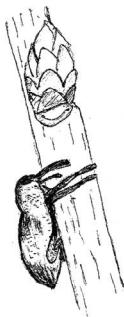
芳我 めぐみ(千葉市)

日 時：2010年2月7日（日）10:30～12:00 天候：晴れ・強風

参加者：33名（大人16名 子ども17名）

担当指導員：松本美千代・芳我めぐみ

天気予報通り晴れているが風が強い。気温も低く体感温度は一層低く感じられた。この天気では参加者は少ないだろうと予想したが定刻になると33名と大勢参加してくれた。いつものようにいきものの里の成り立ち、注意事項を伝え今日のテーマ「カエルの卵塊」の写真を見せて出発した。



入口から入ってすぐの林でまず観察開始。目の高さにあるスダジイの小枝にふくらんで穴が開いたものを「カシアシナガゾウムシ」の虫こぶであることを話した。ここから出たカシアシナガゾウムシは左の絵のように枝にしがみついて成虫越冬するそうだ。どこかにいないか探してもらったが、残念見つからなかった。ウラギンシジミ・ムラサキシジミ・ツチイナゴなど成虫越冬する種もこの付近で見かけるがこの日は見つけられなかった。この日は見られなくても林のどこかに生きているからとの説明に、参加者のみなさん何か見つけようとする気持ちになってくれたようだ。

この後は目的のアカガエルの卵塊を探すため谷津田に向って一直線に行動。めじろんばを過ぎると風はうそのように無くなり、穏やかな冬の風景が広がっていた。最初の卵塊は休耕田に掘られた浅い池。1月末より卵塊調査が行われているので卵塊一つ一つに旗が立っているので発見はたやすかった。もちろん初めて目にした人がほとんどで、「黒いイクラみたい」と参加者の子供さん。カエルといえばこの時期は冬眠中のはず。この卵塊の母親はニホンアカガエルであること。アカガエルは冬季湿地に卵を産むこと、1匹の♀が産卵するのはその年1回だけ。だから卵塊の数を数えるとその地域のアカガエルの生息数をだいたい把握できることなどを説明した。冬季水がある田んぼ、冬眠する場所、吸盤のないアカガエルが渡れる土水路、これらがセットになった場所は現在ほとんど見られなくなっている。大草谷津田はこれらの条件を保った今では貴重な場所だと実感してもらえたと思う。

冬枯れで静まりかえったような谷津田だがよく見ると、足元にはタチツボスミレ・オオイヌノフグリ・ヒメオドリコソウなどが陽だまりで花をつけていた。この他にオオカマキリとハラビロカマキリの卵のう・モリチャバネゴキブリの幼虫・朽木の中にキマワリの幼虫・朽木の下にコキベリアオゴミムシ・ヘリクヌギカメムシの卵のう・シロダモの葉に虫こぶなど次々見つけられた。ヤマグワに繭が多数ぶら下がっていた。中を開けてみれば空き巣。繭の主はクワゴ(成虫)。写真を見せ年2回発生し、冬は卵の状態で越冬することを説明した。その卵はクワの幹の模様とそっくりなのでよく観察して見つけて欲しいと話した。実は下見で確認していたのに担当者二人は見つけられない。じっくり観察していた女の子が「ありました」しっかり見つけてくれました。感想は「寒かった」「でも楽しかった」の声に担当者は無事に終わって一安心。（絵 松本美千代）



一仕事終わった 春までひとねむり

